

供給網のCO₂削減支援

バロールド・アイ・グリッド社と共同

来月から「PPA」導入促す

バロールド・アイ・グリッド・ソリューションズ（東京都）は17日、共同でバロールド・サプライチェーン（供給網）の二酸化炭素（CO₂）削減を支援する取り組み「バロールド・ソーラーシップ」を4月から始めると発表した。発電事業者が無償で太陽光発電設備を設置、維持管理を行う「PPA（電力購入契約）モデル」の導入を県内外の取引先企業に促す。両社によると、サプライチェーン全体のCO₂削減対策として取引先に再生エネルギーの導入を支援するのは、流通小売業界で国内初となる。（山本貴史）

【関連記事19面に】

バロールドは、2030年3月期にサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を21年3月期比で40%削減し、50年3月期にゼロにする目標を掲げている。

新たに始める取り組みでは、導入する企業に対し、設置予定施設の構造計算などのアドバイスのほか、蓄電池や電気自動車（EV）充電設備などニーズに合わせた提案を行う。ソーラーシップ全体の取り組みとし

を盛り込んだ連携協定を結び、取引先ではない幅広い企業へのPPA導入も呼びかける。ソーラーシップのホームページを立ち上げ、

問い合わせや申し込みに対応する。県は4月以降、県内でPPAの発電設備を設置する企業と団体を対象に、設置後の電気代を値引きする形で補助金を支給する制度を始める。

バロールドグループの施設と、ソーラーシップを合わせて30年までに100メガワットの設備設置を目指す。バロールドの小池孝幸社長代行は取材に「地域全体の脱炭素化を広げていく三方良しの取り組みを成立させた」と話した。